

地区の現況と課題

首里城以前の王統の居城である浦添グスクの丘陵地帯は市民にとって、まちづくりの精神的な拠り所と言え、その麓の仲間地区は浦添グスクの城下町として位置付けられる。しかし、浦添グスクを中心としたまちづくりの機運は限定的なものであった。ところが、首里城をはじめとするグスク群の世界遺産の登録を機に、浦添グスクの存在を市民が再認識し歴史文化を活かしたまちづくりに関する機運が芽生え、歴史的街なみの形成や地域の歴史資源や首里城へ繋がる宿道などの復元や利活用が課題となっている。

提案事業の特徴

まちづくり活動推進事業：地元の歴史ガイドによる、歴史資源の案内や浦添グスクから首里城へ至る宿道沿線の歴史的資源を訪ねるウォークラリーの開催などを通して、首里城と浦添グスクを結ぶ宿道の連続性や地域資源の存在を市民や来訪者へアピールし利活用につなげる。

仲間樋川・浦添御殿墓発掘調査：前大戦で喪失した地域の重要な歴史資源の利活用のため、文化財の発掘調査を行い復元に活かす。

計画策定プロセス

仲間まちづくり塾：仲間地区は、本市が昭和 63 年の景観形成基本計画で重点地区として位置づけ、まちづくりの取り組みをはじめ、平成 13 年からは地域住民と「仲間まちづくり塾」と称して、地区のまちづくりの将来像を描く地区歩きなどを含めたワークショップ重ねてきた経緯がある。

景観法の制定：景観法の制定を機に、景観行政団体となった本市の景観計画の中で、市民会議の意見を踏まえて浦添グスク周辺を「歴史文化のよりどころ地区」として重点的な地域として位置付け、仲間地区を重点地区に指定している。

地域力を活かしたまちづくり：整備計画の策定に当たっては、地元住民代表や地域で活動する NPO 法人うらおそい歴史ガイド、また、市の文化財部門などからなる研究会を立ち上げ地域と伴に取り組んでいる。

儀間光男 浦添市長のコメント

首里城以前の王統の居城である浦添グスクは、本市の歴史・文化まちづくりの核と位置付け現在その復元が進んでいる。また、沖縄都市モノレールの延長計画で首里城のある首里駅から伸びて浦添グスクへ至るルートが計画されており、今回の受賞は浦添グスクを中心とした歴史・文化の回廊づくりの過去から未来へと繋がる第一歩として受けとめ、今後ともまちづくりに取り組んでいきたい。

銘苅氏 仲間自治会長のコメント

当初は、地域住民参加の手法がわからず産みの苦しみがあつたと聞いています。しかし、作業を重ねていくうち私達住民の意識に歴史・文化の残る地域に住むことへの誇りが芽生え、地域の連帯感が強まったと確信しています。今後は世代間交流にも繋がる事を期待します。

仲間氏 うらおそい歴史ガイド友の会理事長のコメント

沖縄はかつて琉球王国という独立国家でした。その琉球王国は、今から 600 年あまり前にこの浦添の地で誕生したと言われています。ところが貴重な文化財が前大戦で壊滅的に破壊され、現在その復元が進んでいます。今回、ウォークラリーなどを開催し市民(他市町村からの参加者も多い)から好評を得ており、将来は次代を担う子供達の育成に繋がりたい。



▲浦添グスクの丘陵地帯を背景にみる仲間地区



▲仲間地区のまちづくりワークショップ



▲仲間地区景観基準

▲仲間地区地域資源図



▲復元された仲間樋川、上：樋（とい）部分



▲歴史ウォークラリー、上：NPO 作成のパンフ